

私学の魂

和洋九段女子
中学校高等学校

英語に“超特化”したカリキュラムに 確かな手応え! 輝く女性になるために「いまできること」 に全力疾走!!

都心にありながら周辺には皇居や靖国神社、北の丸公園など緑豊かな名所が隣接する和洋九段女子中学校高等学校。明治30年創立以来の伝統「和魂洋才」を教育の柱に、グローバル時代を見据えた「先を見て齊える（将来を見つめていまでできることに一生懸命に取り組む）」という校訓のもと、3つの重点項目「進学指導の強化」「国際化教育の推進」「表現力の向上」を掲げて取り組んでいます。

取材当日は期末考査前の放課後。自習室「スタディステーション」に急ぐ生徒たちはなんだか楽しそう♪きっと「友達と一緒にだから」なのでしょう。

来年度からの英語時間数拡大や関西の名門「関西学院大学」との教育提携など、“未来を見つめた”改革が進む同校の教育について、入試広報室長の川上武彦先生にお話を伺いました。



入試広報室長 川上武彦先生

和洋九段女子中学校高等学校

沿革 1897年 創設者 堀越千代により和洋裁縫女学院設立。
1947年 新教育制度により、和洋九段女子中学校発足。
翌年、和洋九段女子高等学校発足。
1949年 和洋女子大学附属九段女子中学校、同高等学校に改称。
1975年 中高一貫教育開始。
1992年 校名を和洋九段女子中学校高等学校に改称。
以降、3期にわたる校舎新築工事を実施。
2014年 創立117年を迎える。

校長 橋本 喜一

所在地 千代田区九段北 1-12-12

TEL : 03 (3262) 4161

<http://www.wayokudan.ed.jp/>

交通 東京メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線「九段下」駅より徒歩約3分

DATA

1

英語優先&コツコツ学習で 2013年度の大学進学実績が大きく躍進！

2013年度の大学進学実績が大きく伸びた和洋九段。国公立2名をはじめ、早慶上理ICU23名、GMARCH54名など、軒並み前年比約2倍の合格者を輩出しました。理系大学の合格者も、資格に結びつく看護・保健・栄養系などを中心に100名に到達。この結果からは一部の生徒のがんばりではなく、全体レベルの底上げがうかがえます。その第1の理由として、入試広報室長の川上武彦先生は英語の強化をあげます。

「高1から3年間、毎朝英語長文に取り組みました。読み上げた量は問題集50冊を超えました。中学時代から長い読み物に慣れていた学年だったので、スムーズに読解力養成が進みました。文系、理系それぞれの受験科目の強化に加えて、リスニングへの挑戦も朝学習に加えられました。NHKのラジオ講座「攻略！英語リスニング」などの1ランク上の教材に出会うことから、多くの刺激を受け、実力を伸ばしました。校内の各教科担当の教員から徹底的に鍛えてもらったことも強みでした。わからないことをそのままにせず、必ずその日のうちに解決する勉強を実践しました。生徒たちが次第に“質問上手”になっていくことも確かな実力が育ってきた証拠でした。

受験に際して英語の強い大学ばかりを選び受験し、合格を重ねることができたのは、長期計画の下で、“コツコツがこつ！”を合言葉に努力を続けたからです。また、“英語を読む”だけでなく、“英語で読む”体験も大切なポイントです。心の柔らかな時期に、例えばマザー・テレサ、キング牧師、チャップリンなどの生涯を英語で読み、多くのものを学んだようです。最初は初めて見る単語や習っていない文法などに押しつぶされそうになりながら、やがて彼らの生き方の素晴らしさや力強いメッ



ネイティブの教員による少人数制の英会話授業はいつも和気あいあい♪

セージに惹きつけられ、どんどん読めるようになります。そして国や時代の違いを越えた、“human dignity”（人間の尊厳）という普遍的なテーマに触れ、自分を取り巻く社会や世界への意識がぐ〜んと高まるのです。ここにこそ、英語を学ぶ意味が実証されます。にわかにグローバル教育はできません。時間をかけて、自分の世の中を少しずつ広げ、深めていく—そんな努力が、受験本番で難関大学の超長文であっても楽しんで解くことができたという卒業生たちの感想につながりました」

2015年度から英語を一段と強化！ 中1は週7時間、中2・中3は週8時間に

ネイティブスピーカーによる少人数制の英会話の授業や、日本語禁止の「英会話サロン」、オーストラリア・シドニーの姉妹校での海外研修&ホームステイなど、和洋九段には英語力を磨くさまざまな機会があります。

「今の生徒が社会に出たときには、『英語ができる』ことではなく、『英語を使って何ができるか』を求められることは明らかです。英語を強化することに理由をあれこれ述べる暇はありません。

また、近視眼的になりますが、大学受験の際も、文系・理系を問わず英語力が求められます。英語ができないが為に、何かを諦めるなどということが絶対に無いように、英語をしっかりマスターしてもらいます。」(川上先生)

重点項目の国際化教育を推進するべく、2015年度から英語の授業を大幅に増加します。中学は各学年週5時間から、中1が1時間、中2・3は週2時間増えます。週1時間の英会話を加えると、英語の授業は中1が週7時間、中2・中3は週8時間にもなります。

授業時間の増加に伴い、教科書として、文法を体系的にとらえつつもコミュニケーション英語力が養えるテキスト『Birdland』を採用、英語のさらなるレベルアップを図ります。また関西学院大学との提携も予定している



「スタディステーション」は個別ブースのため、勉強に集中するには最高のスペース！わからない問題は先生に質問することも！！



海外研修や交換留学など、異文化体験プログラムも豊富！高1・2の希望者を対象にオーストラリアにある姉妹校へ留学とホームステイを実施します。現地校の生徒たちに浴衣姿を披露しました♪(写真左)

とか。古くから英語教育に重点を置き、独自の「実践型"世界市民"育成プログラム」を実施している関学からノウハウの提供を受けることで、さらなる国際教育の強化を図るべく現在進行中です。

高校生は「スタディステーション」で20時まで自習！大学受験のラストスパートに絶大な効果を発揮します

もう一つ、進学実績の伸長を後押ししたのが、2013年6月開設の自習室「スタディステーション」です。パーテーションで仕切られた個別の自習ブースが120席。「勉強するぞ」と集中でき、学習効率も上がります。大学受験前の高3の真剣な姿に、後輩たちは大いに刺激を受けました。

中学生は平日18時まで、高校生は20時まで利用可能(土曜日は17時まで)。定期考査前は大人気で、120席はすぐに埋まってしまうそうです。新校舎にも100席程度設ける予定です。

スタディステーションは単なる場所の提供ではありません。英・数・国をそれぞれ1名以上含む10名の教員が、隣接する学習カウンセリングルームで待機しており質問に対応します。教員総出で生徒を支えています。

スタディステーションの発端は、実はお母さんたちにあったと川上先生は言います。「フルタイム勤務で帰宅が20時を過ぎるお母さんたちが増えています。一方、生徒は部活動がない日は16時前に下校できる日もあります。『自分が帰宅するまで娘はどうしているのかしら……』と気にしているお母さんがたくさんいます。今は入学式に出てその足で出張に向かうお母さんも珍しくありません。こうした家庭の変化を目の当たりにして、改めて学校ができることは何かを考えたのです」

利用時間を20時までとしたのは、帰宅がお母さんと同じくらいになるようにとの配慮から。最寄りの地下鉄九段下駅まで徒歩約3分で安心・安全を確保しやすいことも、20時までの利用を可能にしています。宿題をしっかりと済ませてから帰宅するとあって、保護者からも

好評です。

新校舎に新設されるカフェテリアも、お母さんたちの働き方の変化が導入の決め手になりました。これまで食堂はありませんでしたが、「おいしいものが食べたいから」という理由だけでなく、お母さんたちが毎日お弁当を作る負担が少しでも軽くなればと考えました。出張のような緊急時に限らず、お弁当が傷みやすい夏や、温かいものが食べたい冬に利用できるのは助かります。

メニューは家庭科の教員が吟味した栄養バランスのよいランチを用意。管理栄養士を目指して食物の授業を選択している高3の自作メニューを、カフェテリアで提供する計画もあるそうです。

こうしてみると、和洋九段は生徒思い、そして保護者思いの学校といえそうです。教員たちは保護者との信頼関係を築こうと、とくに中1の保護者とは連絡を密にしています。

世界のどこでも、どんなときも生き抜く「やさしさ」と「強さ」は成功体験の積み重ねによる「自己肯定感」で養う！

学校の授業はともするとインプットに偏りがちなもの。生徒の学びをより実りあるものにするために、和洋九段では自分から発信するアウトプットの機会を意識的に設けています。川上先生は受験生の保護者から、よく「ウチの娘はおとなしくて……」と相談されるそうですが、「自己表現が苦手だと思い込んでいるだけではないですか。本校では日常的に発表の場が多くあるので、場数を踏むうちに表現する楽しさに気づくはず」と答えているそうです。

表現力の向上は、将来求められるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力はもちろん、ICT教育や自主活動の論文作成、相手に不快な思いをさせない言



陽光差し込むおしゃれなカフェテリア！成長期の生徒たちを食事面からカバーします。



1年中使用可能な温水プール！水泳部も活躍中です。

葉遣いや態度を徹底する生活指導を通して育成します。生活指導の一環として、2015年度から中学で小笠原流の礼法を取り入れます。

「将来、どこでも、どんなときでも、元気に生きていける力」——これが、和洋九段が6年間で身につけさせたい力だと、川上先生はいいます。「たとえ災害が襲ってこようと、不景気に見舞われようとも、自分が置かれた状況に柔軟に対応できる力を育みたい。そのとき、目の前にいる相手の気持ちや立場に寄り添って言葉を選び、行動できる思いやりのある女性であってほしいですね。また困難に直面したときは、勇気をもって壁を乗り越えようとする女性を育てたいと思っています」

やさしさや強さは、「自己肯定感」という同じ土壌で育まれます。「いまのままの私で大丈夫」と自信をもつことができれば、次への一步を踏み出すことも、周囲にやさしく接することもできるでしょう。

自己肯定感には「小さな成功体験の積み重ね」によって醸成されます。成功体験は些細なことで構いません。教員が受けとめてあげる、認めてあげる、そしてほめてあげることだと川上先生はいいます。

公民の授業では、新聞のスクラップノートを作成しており、毎回1～2名の生徒が新聞の要約と自分の意見を発表します。「言葉につまりながらの発表だったとしても、私は大きく拍手してがんばった努力を認めます。まず『ここがよかったね』とうまくできたところをほめてから、『次は違う立場からも考えてみようか』と課題を挙げます。すると、『ほめられてよかった』で終わらずに、『次はこうしてみよう』とステップアップにつながることが出来ます」（川上先生）

思春期の生徒にとって、多くの友達の前で自分の意見を述べるというのは大変なプレッシャーです。発表しやすいように、話を聞く姿勢や発表者を受けとめる雰囲気づくりも教員の大事な役割。教員が生徒のいいところを見つけてあげているのを、生徒たちもよく見ています。生徒が教員の真似をして友達の「いいところ探し」をす

ると、学校全体が「みんなでがんばろう」という雰囲気になります。教員がまず生徒に模範を示さなければと、川上先生は気を引き締めていました。

自分の特性を活かして社会に貢献！ 未来をしっかりと見つめるキャリア教育は和洋九段ならでは！

卒業生の就職先は、薬剤師や管理栄養士などのほか、新幹線の運転士、途上国の学校環境の改善に奔走するNGO職員、動物園で働く獣医、パイロット候補生など多彩です。自分の足でしっかり歩んでいる印象を受けるのは、目標に向かって個を磨くキャリア教育など進学指導の強化の成果といえるでしょう。

和洋九段はいまから117年前に「手に職をつけて世の中で活躍する女性の育成」を目指して開校した学校ですから、「キャリア教育は“老舗”という自負があります」と川上先生。「6年間のキャリア教育を通して、自分の特性を自己分析し、この先の社会と照らし合わせて自分はどのような形で社会に貢献できるのかを考え抜きます。自分の特性を活かして社会に貢献する和洋九段の“DNA”を大事にしたいですね」

「和洋」の校名は、創設時の校名「和洋裁縫女学院」に由来します。学校教育に初めて洋裁教育を取り入れて注目されましたが、裁縫を教えるだけが目的ではありませんでした。創立者の堀越千代先生は、手に職をつけて経済的にも精神的にも自立した女性の育成をめざしました。人が社会で活躍するために最も必要とされるものは「人格」です。その人格を磨くために幅広い学問を学ばせました。創立者の思いは、21世紀を生きる生徒たちにしっかりと受け継がれています。

「とても芯が強くしてしなやかに育てていただいた」という卒業生の保護者の言葉は、教員にとって何よりの励みです。和洋九段は家庭との最強タッグで、ゆっくりと、けれども着実に、描いた夢を実現できる女性に育てていきます。



グローバル化に向け、世界に日本の伝統文化を伝えるのも、これからの女子には大切な役割！（左：茶道部、右：箏曲部）